

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6521376号
(P6521376)

(45) 発行日 令和1年5月29日(2019.5.29)

(24) 登録日 令和1年5月10日(2019.5.10)

(51) Int.Cl.

F I

A 4 5 D 33/00 (2006.01)

A 4 5 D 33/00 6 5 0 A

A 4 5 D 33/00 6 1 0 A

請求項の数 4 (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願2015-152062 (P2015-152062)
(22) 出願日 平成27年7月31日(2015.7.31)
(65) 公開番号 特開2017-29370 (P2017-29370A)
(43) 公開日 平成29年2月9日(2017.2.9)
審査請求日 平成30年2月1日(2018.2.1)

(73) 特許権者 000006909
株式会社吉野工業所
東京都江東区大島3丁目2番6号
(74) 代理人 100113169
弁理士 今岡 憲
(72) 発明者 坂本 智
東京都江東区大島3の2の6 株式会社吉
野工業所内
審査官 長清 吉範

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 コンパクト容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

上面開口の本体周壁(6)を有するコンパクト本体(2)と、

上記本体周壁(6)の上面を覆うとともに当該本体周壁(6)の開口面を開閉自在にコンパクト本体(2)の後部へ枢着させた蓋体(20)と、

を具備しており、かつ前方から見て上記コンパクト本体(2)と蓋体(20)とは左右方向に同巾であるコンパクト容器において、

閉蓋状態の蓋体(20)の左右方向の側面(24)の少なくとも後部を覆うように上記本体周壁(6)上面の左右側縁部の少なくとも後部から左右一対の指当て板部(16)を起立しており、

上記蓋体(20)の左右方向の側面(24)は、その前側部分である第1面部(24a)から、段差面(24c)を介して、当該側面(24)の後側部分である第2面部(24b)を内方へ凹没させてなるとともに、

この第2面部(24b)が上記指当て板部(16)で覆われるように設け、

上記第1面部(24a)と指当て板部(16)の外面とが上方から見てほぼ面一になるように形成したことを特徴とする、コンパクト容器。

【請求項 2】

上記本体周壁(6)の左右一対の側壁部(6c)の上端面のうち、内側部分を蓋体(20)下面と向かい合う閉塞面部(8a)とするとともに、外側部分を上述の側縁部として指当て板部(16)に連続させたことを特徴とする、請求項1に記載のコンパクト容器。

10

20

【請求項 3】

上記指当て板部(16)の前端面(16a)を、後側上縁から前下方へ傾斜する斜面に形成したことを特徴とする、請求項1又は請求項2に記載のコンパクト容器。

【請求項 4】

上記指当て板部(16)が、本体周壁(6)の左右側縁部の後部から前端寄りに延びるように設けたことを特徴とする、請求項1から請求項3の何れかに記載のコンパクト容器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、コンパクト容器に関する。

10

【背景技術】

【0002】

この種コンパクト容器として、コンパクト本体の後部に蓋体を枢着させ、コンパクト本体の前部に組み込んだ押釦を押すことで、蓋体及びコンパクト本体の各前部を連結するロック機構を解除し、蓋体の周面に指を掛けて蓋体を開くように構成したものが知られている(特許文献1)。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2013-179996

20

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

特許文献1のコンパクト容器を一方の手の上に載せて開蓋操作を行うときにその手の指が蓋体の左右側面に触れており、その指との摩擦力により、開蓋操作の邪魔になることがあった。

こうした不都合を回避するために、例えばコンパクト本体に対して蓋体を開方向に付勢する付勢手段を蓋体の枢着部に組み込み、押釦を押すと蓋体が自動的に開くようにすることもできるが、構造が複雑となるという問題点がある。

【0005】

30

本発明の目的は、蓋体を手で開くときにコンパクト本体を支える手の指が蓋体に触れて開蓋操作の邪魔にならないようにしたコンパクト容器を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

第1の手段は、上面開口の本体周壁6を有するコンパクト本体2と、

上記本体周壁6の上面を覆うとともに当該本体周壁6の開口面を開閉自在にコンパクト本体2の後部へ枢着させた蓋体20と、

を具備しており、かつ前方から見て上記コンパクト本体2と蓋体20とは左右方向に同巾であるコンパクト容器において、

閉蓋状態の蓋体20の左右方向の側面24の少なくとも後部を覆うように上記本体周壁6上面の左右側縁部の少なくとも後部から左右一対の指当て板部16を起立しており、

40

上記蓋体20の左右方向の側面24は、その前側部分である第1面部24aから、段差面24cを介して、当該側面24の後側部分である第2面部24bを内方へ凹没させてなるとともに、

この第2面部24bが上記指当て板部16で覆われるように設け、

上記第1面部24aと指当て板部16の外面とが上方から見てほぼ面一になるように形成している。

【0007】

本手段では、図4乃至図6に示すように本体周壁6上面の左右側縁部の少なくとも後部から左右一対の指当て板部16を起立している。各指当て板部16は、蓋体の左右方向の

50

側面の少なくとも後部を覆っており、コンパクト容器を手の平に載せて支えるときに、その手の2本の指で指当て板部16の外側に当ててコンパクト容器を持つことができるようにしている。これにより、指が蓋体20の側面に触れることを防止できるので、蓋体の開蓋操作の邪魔になることがない。

なお、上記指当て板部を本体周壁6の左右側縁部の後部側に設けた理由は、デザイン性や使用性を考慮したことである。また、「左右一対の指当て板部」には、左右に設けた指当て板部の位置や大きさがそれぞれ異なっている形態のものも含まれるものとする。

【0009】

また本手段では、図4乃至図6に示すように蓋体20の左右方向の側面24の前側部分である第1面部24aから段差面24cを介して、当該側面24の後側部分である第2面部24bを内方へ凹没させるように形成している。そしてこの第2面部24bが指当て板部16で覆われるように設け、例えば図1に示すように、上記第1面部24aと指当て板部16の外面とがほぼ面一になるように形成している。

10

【0010】

第2の手段は、第1の手段を有し、かつ

上記本体周壁6の左右一対の側壁部6cの上端面のうち、内側部分を蓋体20下面と向かい合う閉塞面部8aとするとともに、外側部分を上述の側縁部として指当て板部16に連続させている。

【0011】

本手段では、図4乃至図6に示す本体周壁6の左右一対の側壁部6cの上端面のうち、内側部分を蓋体20下面と向かい合う閉塞面部8aとしており、コンパクト本体2と蓋体20との密閉性を損なわないようにしている。そして上記上端面の外側部分を上述の側縁部として指当て板部16に連続させている。

20

【0012】

第3の手段は、第1の手段又は第2の手段を有し、かつ

上記指当て板部16の前端面16aを、後側上縁から前下方へ傾斜する斜面に形成している。

【0013】

本手段では、例えば図1に示すように、指当て板部16の前端面16aを、後側上縁から前下方へ傾斜する斜面に形成している。これにより、軸部28を介する蓋体20の回転がスムーズとなる。

30

【0014】

第4の手段は、第1の手段から第3の手段の何れかを有し、かつ

上記指当て板部16が、本体周壁6の左右側縁部の後部から前端寄りに延びるように設けている。

【0015】

本手段では、図6に示すように、指当て板部16が、本体周壁6の左右側縁部の後部から前端寄りに延びるように設けることを提案している。これにより、指当て板部16へ指を当てることができる場所の範囲が広がる。

【発明の効果】

40

【0016】

第1の手段に係る発明によれば、蓋体20の左右方向の側面24の少なくとも後部を覆うように上記本体周壁6上面の左右側縁部の少なくとも後部から左右一対の指当て板部16を起立したから、コンパクト容器を手の平に載せ、その手の2本指を指当て板部16に当てて開蓋操作をすることができ、その指が蓋体に触れて開蓋の邪魔になることがないので、使い勝手がよい。

また第1の手段に係る発明によれば、蓋体20の左右方向の側面24の前側の第1面部24aと指当て板部16とが上方から見てほぼ面一になるように形成したから、コンパクト容器の側面を手で触れた時の手触りが悪くならない。

第2の手段に係る発明によれば、上記本体周壁6の左右一対の側壁部6cの上端面のう

50

ち、内側部分を蓋体 20 下面と向かい合う閉塞面部 8 a としたから、蓋体 20 の密閉性を損なわない。

第 3 の手段に係る発明によれば、指当て板部 16 の前端部を、後側上縁から前下方へ傾斜する斜面に形成したから、蓋体 20 の開閉操作がスムーズとなる。

第 4 の手段に係る発明によれば、指当て板部 16 が、本体周壁 6 の左右側縁部の後部から前端寄りに延びるように設けたから、指当て板部 16 を指で支える場所の範囲が広がる。

【図面の簡単な説明】

【0017】

【図 1】本発明の第 1 実施形態に係るコンパクト容器の側面図である。

10

【図 2】図 1 のコンパクト容器の斜視図である。

【図 3】図 1 のコンパクト容器の開蓋状態の正面図である。

【図 4】図 1 のコンパクト容器の開蓋状態の斜視図である。

【図 5】本発明の第 2 実施形態に係るコンパクト容器の斜視図である。

【図 6】図 5 のコンパクト容器の開蓋状態の斜視図である。

【発明を実施するための最良の形態】

【0018】

図 1 から図 4 は、本発明の第 1 実施形態に係るコンパクト容器を示している。

【0019】

このコンパクト容器は、コンパクト本体 2 と、蓋体 20 と、押釦 32 とで構成されている。各部材は、例えば合成樹脂材で形成することができる。説明の都合上、このコンパクト容器の基本的構成を始めに解説する。

20

明細書においては、便宜的に、図 1 の右側（蓋体の軸部がある側）を後方、図 1 の左側を前方、前後方向に直交する方向を左右方向というものとする。

【0020】

コンパクト本体 2 は、底壁 4 の外周から平行な左右一对の側壁部 6 c を含む本体周壁 6 を起立している。図示例においては、底壁 4 は矩形としており、本体周壁 6 を 4 角筒状としているが、その形状は適宜変更することができる。本体周壁 6 の後壁部 6 b では長手方向の中間部を切り欠き、その切り欠き面に軸孔を穿設して、軸受部 10 に形成している。また本体周壁 6 の前壁部 6 a の長手方向中間部を凹設して、押釦収納部 12 を形成している。

30

【0021】

蓋体 20 は、本体周壁 6 の上面を覆いかつ一定の厚みを有する蓋板 22 の後部から垂下脚 26 を垂設し、この垂下脚 26 を軸部 28 を介して上記軸受部 10 へ軸着している。蓋板 22 の下面外周部は、上記本体周壁 6 の上端面に当接している。上記蓋板 22 の裏面には鏡 23 を貼着している。上記蓋板 22 の前部からフック 30 を下方突出している。

【0022】

押釦 32 は、上記押釦収納部 12 内に水平な回転軸の周りを揺動可能に挿入されている。押釦 32 の上面には、蓋体 20 のフック 30 を挿入することでロック可能なフック受部 34 を形成しており、押釦 32 の前面を押して押釦 32 を揺動させることで上記ロックを解除できるように形成している。

40

【0023】

本発明では、左右の側壁部 6 c から、蓋体 20 の左右方向の側面 24 の後部を覆う指当て板部 16 を起立している。図示の指当て板部 16 は、蓋板 22 の上面より上方へ突出しないように、蓋板 22 の厚みと同程度に起立している。

【0024】

本実施形態では、蓋体 20 の左右方向の側面 24 の前側部分である第 1 面部 24 a から、段差面 24 c を介して、当該側面 24 の後側部分である第 2 面部 24 b を内方へ凹没させている。また本体周壁 6 の左右一对の側壁部 6 c の上端面 8 の外側部分から一对の指当て板部 16 を起立している。これにより、図 2 に示すように、蓋体 20 の第 1 面部 24 a

50

と指当て板部 16 の外面とがほぼ面一になるようにしている。

【0025】

指当て板部 16 は、側壁部 6c の後部に設けている。

もっとも参考例として、指当て板部 16 を側壁部の前後方向中間部又は側壁部に設けてもよい。このような配置とするときには、蓋体 20 の側面 24 のうちで凹没させた第 2 面部の位置も指当て板部の位置に対応して変更させるとよい。また右側の指当て板部と左側の指当て板部とは同じ位置に設ける必要はなく、相互に前後方向にずれた位置に設けてもよい。

指当て板部 16 の形状は、側壁部から上方に向けて、三角形や台形・長方形などの略角形状、或いは略半円形・半楕円形など、指当ての役目を果たす限り、どのような形状でもよい。

10

指当て板部 16 の大きさも指に掛かる範囲のものであればどの程度でもよい。

【0026】

上記側壁部 6c の上端面 8 の内側部分を蓋体 20 下面と向かい合う閉塞面部 8a としている。これにより、蓋体 20 の閉蓋時のコンパクト容器の密閉性を担保している。

【0027】

さらに上記指当て板部 16 の前端面 16a は、後側上縁から前下方へ傾斜する斜面に形成されている。具体的には、図 1 に示すように、軸部 28 を中心として前端面 16a の上端を通る円弧 C2 よりも軸部 28 を中心として前端面 16a の下端を通る円弧 C1 が大径となるように前端面の傾斜を設定する。これにより、軸部 28 を中心として蓋体 20 を回転させるときに、蓋体 20 の段差面 24c が指当て板部 16 の前端面に引っ掛からないようにしている。

20

【0028】

本発明のコンパクト容器を使用するときには、コンパクト本体 2 を手の平に載せると共に、その手の 2 本指をそれぞれ一対の指当て板部 16 の外側に当てることでコンパクト容器を支持する。そして押釦 32 を押して蓋体 20 のフック 30 とフック受部 34 とのロックを解除し、蓋体 20 の前部を上を押し上げる。このときに 2 本の指は指当て板部 16 の外面に当てているので、蓋体 20 の側面に触れることがなく、開蓋操作の邪魔になることがない。

30

【0029】

以下本発明の他の実施形態を説明する。これらの説明の説明において第 1 実施形態と同じ構成については解説を省略する。

【0030】

図 5 から図 6 は、本発明の第 2 実施形態に係るコンパクト容器を示している。

指当て板部 16 が、コンパクト本体 2 の左右側縁部の後部から前端寄りに延びるように設けている。これにより、一対の指当て板部 16 の外側から指を当てて支持するとき、指を当てる場所の自由度が広がる。

【符号の説明】

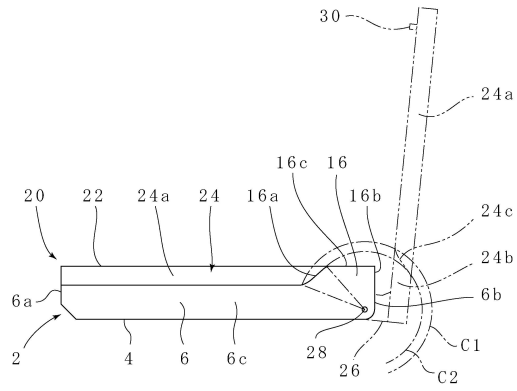
【0031】

40

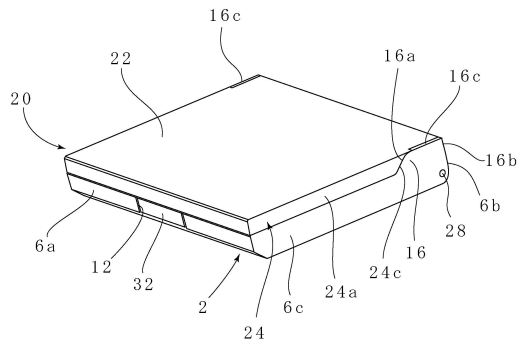
2 ... コンパクト本体 4 ... 底壁 6 ... 本体周壁 6a ... 前壁部 6b ... 後壁部
6c ... 側壁部
8 ... 上端面 8a ... 閉塞面部
10 ... 軸受部 12 ... 押釦収納部 14 ... 仕切り壁部
16 ... 指当て板部 16a ... 前端面 16b ... 後端面 16c ... 上端面
18 ... 押釦
20 ... 蓋体 22 ... 蓋板 23 ... 鏡
24 ... 側面 24a ... 第 1 面 24b ... 第 2 面 24c ... 段差面
26 ... 垂下脚 28 ... 軸部 30 ... フック
32 ... 押釦 34 ... フック受部

50

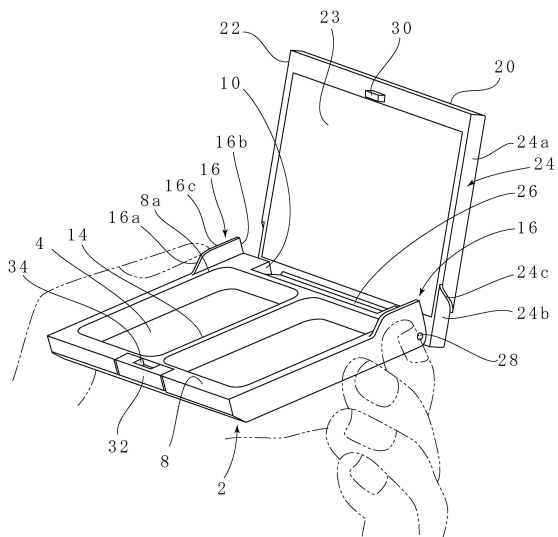
【図 1】



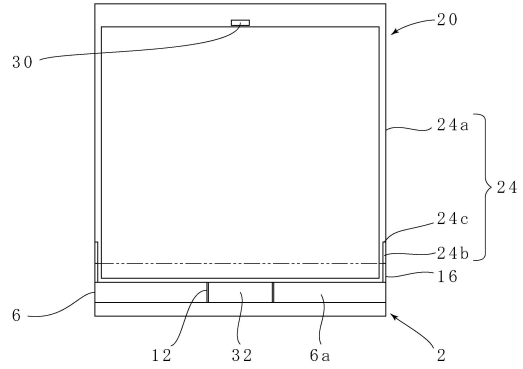
【図 2】



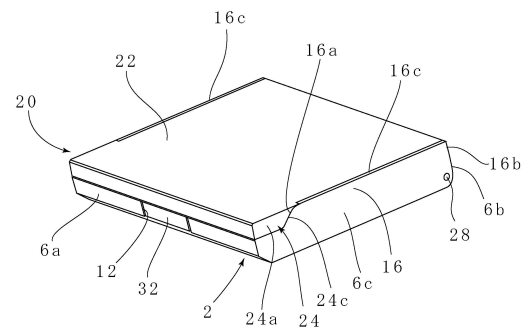
【図 4】



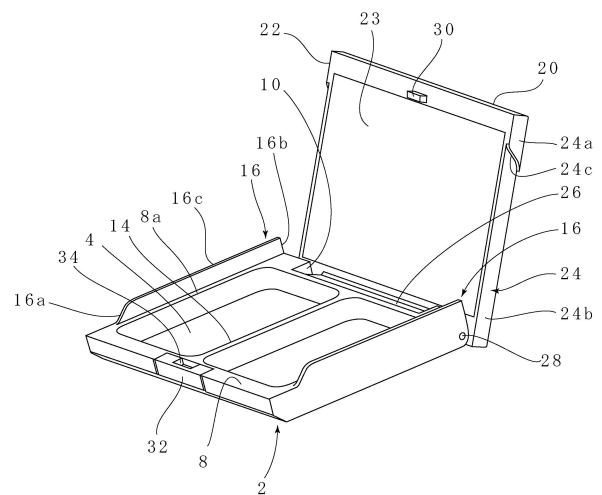
【図 3】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭64-43813(JP,U)
実公平4-45627(JP,Y2)
実開昭59-67106(JP,U)
実開平4-308(JP,U)
実開昭62-37213(JP,U)
実開平5-10286(JP,U)
特開平10-167373(JP,A)
実開平1-157607(JP,U)
米国特許第4941226(US,A)
仏国特許出願公開第2877818(FR,A1)
米国特許出願公開第2006/0118455(US,A1)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A45D 33/00